

こうみょう

第 35 号

この如来は光明なり。光明は智慧なり。

智慧はひかりのかたちなり。

親鸞聖人著作『一念多念文意』

NHKの朝ドラ「虎に翼」、面白かったです。

日本で最初の女性弁護士がモデルとなった物語でしたが、演じられた皆さんがとっても素敵でした。

そして何より、脚本が素晴らしかったのではないのでしょうか。僕の受け取りですが、この物語の核心は「法の下の平等」を規定した、日本国憲法第一条にあると思っています。

すべて国民は、法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。

これが第十四条です。

現代社会に生きる僕にとって、とても大事なことだと改めて感じています。社会においても、職場においても、そして家庭においても、みな平等であると。こんな当たり前のことを忘れていたのではないかと思うことが、この社会にはたくさんあります。

ドラマでは、個人が尊重されるべきであるということが強調されます。夫婦であっても、親子であっても、友人であっても、同僚であっても、誰からも差別されることのない尊ばれるべきいのちを生きていると。皆さんは、どう思われますか？

第 35 号

2024 年 10 月 1 日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田 9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

ホームページ：

<http://koumyouji-fukagawa.or.jp/>



江東区・木場公園の大橋から見た

お彼岸お中日の夕陽

第22回終活セミナー報告

2024年8月17日(土)、第22回目となる「終活セミナー」を開催いたしました。

参加者は、お寺に27名、インターネットを使ったZoomで12名の方々にご参加いただきました。

今回はテーマを二本立てとしました。

一つ目は、住職より「エンディングノートと私の物語」といたし、東本願寺真宗会館より発行予定のライフエンディングノート「生きることを始めるための遺言ノート」を使用し、そのポイントをお話いたしました。

二つ目は、白河厚生総合病院の総合診療科の医師・宮下淳先生より「日本人のアドバンス・ケア・プランニングと信仰心」というテーマでお話いただきました。

この二つは、実は密接に関係があるのです。そのことを改めて実感できました。

エンディングノートを書くというところで大切にしたいことは、書いて終わりではなく、誰かに伝えるということ。私の物語を聞いてもらうこと、そして私も大切な人の物語を聞くことだと思っております。

いまの私、過去の私、そして未来の私。何を大切に生きて行くのか、何を願って生きて

行くのか。それを、語り合う場所がお寺なのだと思っております。

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)は、日本では「人生会議」という愛称でその推進が呼び掛けられています。

宮下先生の解説ですと、ACPとは、「将来重篤な疾病や外傷により意思決定能力が低下した場合に備えて、将来の診療方針についてあらかじめ家族や医療・ケアチームと話し合うこと」ということでした。

先生からは、事例を交え、分かりやすく終末期についてのお話しをお聞きできました。



話し合っておくことが大事だということ

は分かっているのですが、難しいことです。そんな時に、エンディングノートを手掛かりに話し合うこともできるでしょう。

アンケートをご紹介いたします。

◆参加の動機を教えてください

- ・エンディングノート、ACP共に関心があり参加いたしました
- ・木曜日のカフェに参加していた
- ・自分の終末期についての考えになった

◆新たな発見や気づきがありましたか

- ・信仰心がACPに与える影響
- ・日本では信仰心が高いほど人生会議をしているという結果がとても興味深かった

◆お寺の視点でのエンディングノートが斬新

◆これから実践しようと思っている「終活」があれば教えてください

- ・真宗大谷派のノートを書いてみる
- ・自分の思いを形にする
- ・家族とたくさん話していきたいと思います

◆全体を通しての感想など

- ・ご本尊のあるところで多職種のお話を聞くことができるのはとても良い場だと思う
- ・お寺は地域の寄り合いの場という位置関係は素敵な事だなと思います
- ・地域に開かれたお寺を感じることができて良かった

◆聞いてみたいテーマは?

- 1位 在宅医療・在宅介護
- 2位 相続・遺言
- 3位 葬儀・墓
- 4位 生前整理・遺品整理

ということでしたので、次回は「在宅医療」を取り上げて開催いたします。

仏事について・・・ここが知りたい！

法名について・位号について

真宗大谷派では、法名は生きていられるうちにいただくことができます。それは、何を中心に生きるかという、人生の選択だからです。そのための儀式を「帰敬式（おかみそり）」と言い、光明寺で受式することができます。でも、生きていられるうちに合わなかった方にもお通夜の時間におかみそりをあて、仏弟子としてののちを終えていかれたという形をとります。

正しい法名は「釋(尼)〇〇」となります。先代住職の時にこの法名の後に「位号」（居士・大姉）が付いている方がいらっしゃるかと思いますが、今は宗派全体でも位号を止めようと呼びかけられておりますので、私、現住職として位号（居士・大姉）は付けません。位号は敬称、つまり「殿」や「様」のようなもので、本来は浄土真宗の法名に付けるものではありません。

しかし、時代の影響を受ける中で3文字の法名では短いので長くしてほしいという要望に應えるためや、長くすることでお布施をいただくということもあったと思われます。位号は付けず、正式な法名を名告っていただきたいと思っておりますので、ご理解ください。

秋季彼岸会合同法要勤修

9月22日（祝・日）お彼岸のお中日に、秋季彼岸会合同法要をお勤めいたしました。毎年、お中日の13時より開催する予定でありますので、ぜひ、ご参詣ください。



13時より合同法要
13時50分頃より
住職による法話
14時20分頃 終了

光明寺に駐車場ができました

このたび、隣地を取得いたしましたし、参詣者用の駐車場を設けることができました。ご利用の際にはご連絡ください。



若院（住職の息子）が 真宗大谷派教師資格を 取得いたしました

このたび、真宗大谷派教師となりました。小林尚寛と申します。今年の3月まで2年間、大谷大学大学院にて仏教や親鸞聖人について学び、教師資格を取得いたしました。4月からは福祉用具の会社に勤めておりますが、これから光明寺での仏事にも参加していきたいです。

まだまだ未熟ではありますが、いずれは住職となり、光明寺という場を長く愛していただけるように務めます。何卒よろしくお願いいたします。



小林尚寛（釋尚寛）
高校まで野球をやっておりましたが、ピアノとギターが弾ける多彩な面があります（住職談）。

今後は、法事や葬儀にも同行させたいと思っておりますので、皆さまよりお育てをいただきますようお願い申し上げます。（住職）

ご報告

毎年8月、東京教務所を通じて、宗派への護持金等の納金依頼書が届きます。それぞれのお寺で提出している門徒戸数に基づいて、ご依頼額が決められます。今年度の光明寺へのご依頼総額は、九十六万二千五百円でした。今年も無事に納金を済ませることができましたこと、皆さまに御礼申し上げます。

本山・真宗本廟（京都の東本願寺）は、ご門徒一人一人からの「ご懇志」によって護持・運営されています。お寺は、そのご門徒からのご懇志を取り次ぐ役目を担っております。

光明寺では、一昨年末までは布施収入の中より護持金を支出しておりましたが、昨年より皆さまに「光明寺護持会費」の納入をお願いいたしました。お納めいただきました会費によって、本山への護持金の納入と、光明寺の運営、特に教化活動のための資金とさせていただきます。ただきたいと願っております。

本年お納めいただいた護持会費は一七二件、八十六万円でした。ご懇念に対しまして厚く御礼申し上げます。その全額を本山への護持金として支出いたしました。

引き続き、護持会費の納入をお願いしてまいりますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

報恩講のご案内

宗祖親鸞聖人の御遺徳を偲び、阿弥陀如来の本願に出遇い得た喜びを、共に確かめ合いたいと思います。ぜひ御参詣ください。

期日	日程
2024年11月10日（日）	13時 「報恩講」 開式

14時 法話 田澤廣明師（専念寺）
荒木貴弘師（萬福寺）

15時 お齋

※参詣をご希望の方は、お齋の準備の都合上、お寺までご連絡ください。

修正会のご案内

新しい年を迎えるにあたり、お寺で「一緒に「正信偈」をお勤めしましょう。

期日	日程
2025年1月1日（水）	11時 「修正会」 開式

11時30分 新年会

※どなたでもご参詣いただけますが、準備の都合上、お寺までご連絡ください。

第23回終活セミナー

「終活」とは、やがて終わりを迎える私の人生に向き合い、心配なことを整理し、今のちを安心して生きて往くための活動です。お寺で、一緒に考えましょう。

開催日…12月14日（土） 14時～16時
テーマ…安心して在宅医療を受けるために」
講師…大江戸江東クリニク

院長 岡田章佑（ひろあき）先生
参加費…無料

「在宅医療」は、前回のセミナー後のアンケートで関心が最も高かったテーマです。多くの方が興味をお持ちのようですが、でも実際についてはよく分からない…という方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

安心して在宅医療を受けるためには、どのようなきっかけで始めることができるのか、費用についてはどうなのか、また、在宅医療を受けることの良い点など、基本的なところからお聞きしたいと思います。

どなたでもご参加いただけますので、参加をご希望の方は、お寺までご連絡ください。今回も、お寺での参加（定員24名）と「Zoom」との併催となります。